

コロラド州：小麦作柄と気象状況

2005年6月7日

2005年6月5日現在：

6月5日に終わる1週間に待望の集中降雨が各地にて記録された。1週間の降水量は1~2インチ、多いところでは3インチ以上であった。気温は極めて低く推移した。Topsoil及びSubsoilの水分は、共に前週より改善した。1週間の州平均農作業稼働日数は5.3日（前週：6.2日）であった。

冬小麦の95%が出穂した。出穂は平年より早いですが昨年ペースより多少遅れていた。登熟（Turning color）に入った圃場は2%のみで、昨年並びに平年より大分遅れている。これは、低温と降水の為と言える。高温・乾燥の条件で急激に登熟するより、条件は良いと言えるが、長期の低温は病害の発生の恐れがある。作柄は前週より多少評価が落ちた。

5月1日付けUSDAの冬小麦生産量予想では、単位収量は昨年の約3割増の35.0bu/ac（2004年産実績：27.0bu/ac）、作付面積は2,450,000エーカーと予想され、生産量は85,750,000Buであった。詳細は別表の通り。

土壌水分：6月5日現在

	Very Short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil (%)	7	22	64	7
Subsoil (%)	12	38	44	6

生育状況：6月5日現在

	This Week	Last Year	5-Yr Ave.
Headed (%)	95	98	90
Turning (%)	2	7	11

作柄状況：6月7日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This week (%)	5	18	34	36	7
Last week (%)	5	15	33	34	13

Source：Colorado Agricultural Statistics Service

5月1日付けUSDA生産量予想（冬小麦）

Crop State	Harvested Area		Yield		Production		
	1,000 acres		bushels/acre		1,000 bushels		
	2004	2005	2004	2005	2003	2004	2005
NE	1,700	2,450	27.0	35.0	77,000	45,950	85,750
USA	34,462	35,069	43.5	45.4	1,716,721	1,499,434	1,590,862

当該作柄レポートに関するご質問等は下記までにお問い合わせ致します。

小川正晃 : Email ogawa.max@omicnet.com